

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	ストリゴラクトンを介した植物の環境情報と成長を統御するシステムの原型と進化
研究代表者	経塚 淳子 (東北大学・大学院生命科学研究科・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、ストリゴラクトンの進化的機能分化に注目し、陸上植物が土壤中のアーバスキュラー菌根菌 (AM 菌) との共生関係を成立させ、個体成長を最適化する仕組みを獲得した過程を分子レベルで理解しようとするものである。</p> <hr/> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>ストリゴラクトンの祖先形質が共生促進であるとする仮説は独創性が高く、種間比較解析から具体的な分子進化機構が明らかになることが期待できる。また、競争優位性のあるコケ植物を研究対象とすることで、ストリゴラクトン信号伝達の原型となったと考えられる KL 信号伝達系の機能解明が飛躍的に進むことが期待される。</p>